

留学報告書

留学先：ドイツ、ミュンヘン
留学先期間：ミュンヘン工科大学
留学期間：2019年10月-2020年3月

1. 留学準備期

・留学を決めた理由

海外志向がもともとあり、修士1年の時に参加した土木工学の中国のサマースクールで留学に興味を持つようになり、世界の土木工学を学びたいと思い留学を決めました。さらに、通常の留学だけではなく、実際に働く経験もしたかったため、海外インターンにも参加を決めました。結果として1年間のうち、半分を海外インターン、半分を交換留学にしました。ドイツにした理由として、先輩がミュンヘン工科大学に留学をしていたこと、新しい言語に触れたかったこと、また産業国として大きな国であるドイツで学ぶことは最適だと考えたからです。ドイツの中でもトップレベルの大学であるミュンヘン工科大学に決めました。

・語学準備

英語については申請前にIELTS6.5を取得しました。特にスピーキングに力を入れて勉強に励みました。但し、IELTSで高得点を取るにはReadingとListeningで満点近く取る(それぞれ8.0ずつとりました)のが圧倒的に楽なので交換留学の申請時のrequirementsを満たすためだけならそちらの方がオススメです。海外での生活ではスピーキングが大事なのでオンライン英会話や留学生の友達と会話をして練習すると良いと思います。

ドイツ語に関しては、オンラインで7月開講のドイツ語の授業があったので、ドイツ留学前にそれを受講しました。(TUMから勧められたもの。<https://www.deutsch-uni.com/gast/duo/info/index.do?do=index>)

・手続きについて

半分の期間をIAESTEインターンシップ、半分の期間を交換留学に充てるために、時期の調整に気をつけました。まずはミュンヘン工科大学の留学を先に決め、海外インターンシップでうまく残りを充てるようにしました。国際交流課に頻繁に相談に伺いました。

・ビザの手続き

現地に着いてから90日以内に行います。Kreisverwaltungsferatで手続きを行いました。

現地に着き、(1)住民票の取得(2)銀行口座の開設(3)ビザ申請の順で行いました。

なかなか予約が取れないので朝早く(6時くらい)から並び8時くらいに入りが開いたと同時に入るのがベスト。自分がもらったのがFiktionsbescheinigungというもので正規のビザではなく、帰国の際に揉めたので、申請する際には注意が必要です。

・寮の手続き

学生寮の手続きをする際に、パッケージで申し込むことができたのでそれを申し込みました。家賃も3万円程度でミュンヘンという立地にしてはかなり安かったです。Studentstadtという学生寮に入ることができました。

2. 留学期（授業の様子、生活等）

・授業

ドイツ語の授業は先着順だったので受講できませんでした。（ドイツ語については自習と日常で使うようにすることで練習しました）また、英語の授業、土木工学分野からは Risk Analysis, Structural Optimization, Stability of Structure, Technical Acoustic, Traffic Flow といった授業を取りました。

どれも東大では学んだことのない分野だったので良い刺激になりました。（テストは難しかったです。）

授業は修士の授業をメインに取っていたので全て英語で行われました。授業の内容はあらかじめ PDF として TUM Moodle というサイト (ITC-LMS のようなもの) で共有されておりそれをプリントアウトしたり iPad にダウンロードしたりしておき(必要な場合は予習をする)授業に臨むのが一般的でした。



Technical Acoustic という授業で音の反響の実験を実際にコンサートホールで行なった。(左)授業の様子(右)

・研究室

ミュンヘン工科大学での在籍は半年間だけだったのと、3月には帰国だったので研究を許してくれるところは残念ながらありませんでした。(基本的には春の時期に行うらしい)。土木工学科のキャンパスにある掲示を見て回り、興味のあるトピックを研究されている研究室に出向きどんな研究をしているかについてお話を伺うことは出来ました。その際、自身が東大で行なっている研究内容をまとめ発表できるようにしました。

東大とミュンヘン工科大学の研究室の違いとして、ドイツでは修士の初めの1.5年は研究室に属さず授業を中心にとり、その後半年間(インターンという形で)企業と共同研究をしたりするそうです。そのまま共同研究を行った企業に就職するパターンもあるそうです。

・アクティビティ

BGU の自治組織が開催している交換留学生と Erasmus(欧州の大学にあるプログラム)の学生用の trip が3回ほどあるので、参加した。また、Meetup にも登録し、面白そうなものがあればできるだけ参加するようにした。

TUMi という international students に向けた活動があるので、Wein(ウィーン)に2泊3日で行く企画もあったので参加しました。



ウィーンでの写真

また、Tandem に登録し、日本語に興味のあるドイツ人と仲良くなることができました。ドイツ語のわからない部分を質問したり、ミュンヘン付近にある有名な場所(Neuschwanstein 城、クリスマスマーケット)に連れて行ってもらったりした。今でもたまに連絡を取り合っています。

また、大学ではホッケーをやっていたので、ドイツではホッケーが盛んであることからミュンヘンにあるホッケーの地元のチームに参加しました。週1回の活動ではありましたが良い交流になりました。



ホッケーの様子

・その他日常

暇があれば図書館に行き勉強しました。ほとんどの学生が勉強に熱心であり授業後は図書館に直行し勉強しに行くそうです。土曜日日曜日にも関わらず図書館の席が埋まっている状況に驚きました。

・気候

今年は暖冬らしく、雪は全然降りませんでした。寒くても-10°C程度でした。また、部屋は備えつきのヒーターがついており、かなり暖かかった。空気も乾燥しており、洗濯物も部屋に干していたが1日ですぐ乾くような感じだったので楽でした。日照時間が短く、7時間程度しかなかったが気にはなりませんでした。



部屋の様子

3. 留学終了準備期の経験

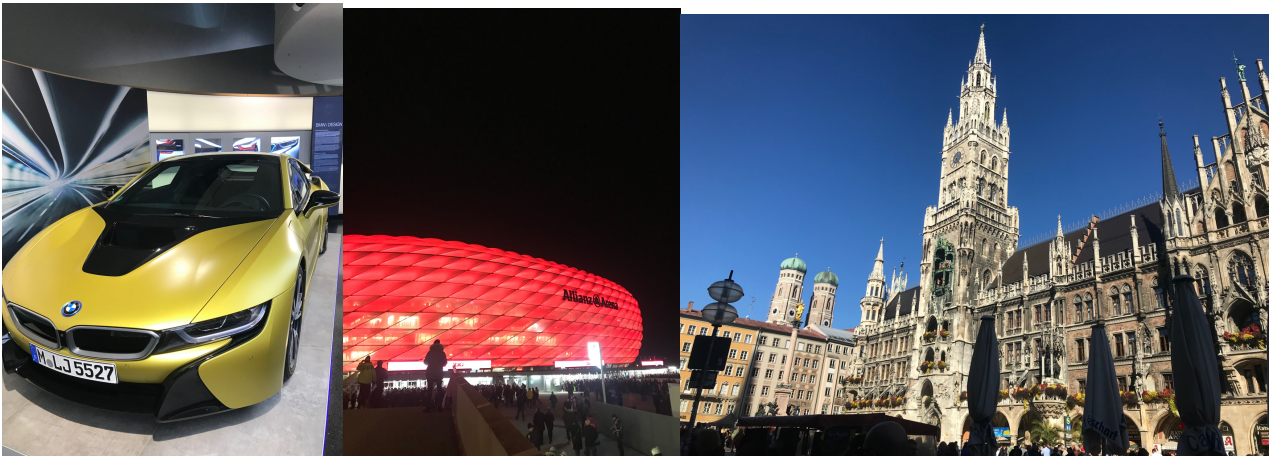
最後の方（2～3月）ではコロナウイルスの関係でドイツにも影響があるかなくらいの時期でしたので、ロックダウンが起これり帰国できなくなる可能性があったので帰国を急ぎました。いくつかコロナの影響でテストを受けることができませんでしたが、交換留学でしたので単位取得に関わる問題はありませんでした。帰国の際、空港でも厳重なチェックが行われており体温チェックなどがありました。

4. 留学後

3月中旬に帰国し就活を行いました。帰国直後は念のため2週間自宅待機をしました。

5. 総括

ドイツでの交換留学、ポーランドでのインターンシップを通じて、留学前はヨーロッパに行ったこともなくイメージもなかったが、実際に欧州に行き欧州の中でも非常に大きな違いを感じることができました。地理的には同質な地域ではあるが電車やバスで数時間行けば言語も文化も変わるという経験は日本人の自分からすると新鮮でした。今回は運良く留学を完全に終わらせてから帰国することができましたが、まだドイツに滞在していた友達やその時期から留学に行くつもりだった方々には大きな影響があったと思います。この状況が良くなることを願っております。



ミュンヘンの3大有名スポット (BWM museum, Bayern Munich, Marienplatz)